

ナンバリングコード 授業科目名 (時間割コード： 800001) 健康イノベーション概論 Introduction to healthcare innovation	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士後 期課程
	水準・分野	DP・提供部局 ABDM	対象学生・特定プロ グラムとの対応
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 前川 泰子, 芳我 ちより, 石丸 伊知 郎, 藤村 和宏	関連授業科目	健康イノベーション研究方法論	
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×8回 + 自学自習(準備学習15時間 + 事後学習15時間)			
授業の概要 実社会の課題を解決できるヘルスケアを創造するために、様々な学問分野において国内外で展開されている先駆的なケア開発やシステム開発研究における理論やその方法論について、最新の知見を得る。本科目では、まず看護における異分野融合研究の可能性を概観し、具体的なヘルスケアに貢献する応用技術に関する研究方法論、医療サービスのマネジメントに必要な経済学的視点から、医療におけるマーケティングに関する研究を捉え、さらにヘルスケアシステムを移植し、SDGs達成に貢献する研究について学び、工学的先端技術、経済学、教育学など異分野を融合して実現するヘルスケアの可能性を探究する。			
授業の目的 学際的視野を醸成し、広く応用価値のある研究方法の精選を可能とするため、様々な学問分野におけるヘルスケアに関連した課題解決に貢献する研究についての知見を深め、自らの研究の可能性について探究する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 実社会のヘルスケアに関する課題を解決する研究の動向を知り、我が国の情報化施策の経緯と現状を背景に、効果的で、かつ質の保証された高度なヘルスケア（保健・医療・福祉）サービスを提供する技術の応用の可能性を探究できる。（DPの専門知識・理解、研究能力・応用力、グローバルマインドに対応） 2. 医療サービスの消費における顧客満足及び顧客参加に影響を及ぼす要因を探究できる。（DPの専門知識・理解、研究能力・応用力に対応） 3. 国際社会のSDGs達成に貢献する国際共同研究を探究できる。（DPの専門知識・理解、研究能力・応用力、グローバルマインドに対応）			
成績評価の方法と基準 1. テーマの応じたプレゼンテーション資料の作成と発表（50%） 2. テーマに対する議論内容（応用力・発展性など）（20%） 3. 最終課題レポート（30%）			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第 1回 オリエンテーション：看護における異分野融合研究の可能性について概観する。（前川） 第 2回 ヘルスケアに貢献する応用技術に関する研究方法論に関して、異分野を融合した先駆的研究に触れながら、ヘルスケア分野における最新のトピックや課題などを取り上げ、効果的で、かつ質の保証された高度なヘルスケア（保健・医療・福祉）サービスを提供する技術と今後の展望について探究する。 （創造工学部：石丸伊知郎教授） 第 3回 ヘルスケアにおけるAIの利活用の実際や、ビックデータより得られる知見から、個人の健康行動への応用や可能性について探究する。（創造工学部：石丸伊知郎教授） 第 4回 マーケティングの観点から、医療サービスの重要な特性の1つである「便益遅延性」が患者、医療従事者、および医療従事者にもたらす諸問題について探究する。 （経済学部：藤村和宏教授） 第 5回 便益遅延性の観点から、医療サービスを構成する3つの便益の享受における遅延性とそれらが顧客満足や患者の参加行動に及ぼす影響などについて探究する。なお、医療サービスを構成する3つの便益とは、機能的便益（身体的な健康度の回復あるいは維持）、感情的便益（身体的健康度の低下によって喚起されるネガティブな感情の低減）、価値観的便益（病気やそれとの付き合い方、人生観に関する認識のポジティブな変化）である。これらの3つの便益は教育サービスにも当てはまることから、医療従事者の育成におけるこれらの便益における遅延性が学習者に及ぼす影響についても探求する。 （経済学部：藤村和宏教授） 第 6回 台湾、タイ、シンガポールなど、アジア諸国のヘルスケアシステムのしくみを日本と比べ、その優れている点についてまとめる。（芳我） 第 7回 解決すべき課題をもちより、それを解決するための方法を多角的に検討し、医療系学問にとどまらず工学、人文学等、異分野を融合した共同研究の可能性を考える。（芳我） 第 8回 まとめ：看護における健康イノベーション研究の可能性を展望する。（前川）			
【授業及び学習の方法】 この科目は基本的に対面授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。			

【自学自習のためのアドバイス】

各テーマについて、最近の研究の動向を調べ、また関連する参考図書、文献を探り、自身の研究課題につなげて考えてください。

教科書・参考書等

参考書：松下 博宣（2017）『医療看護イノベーション：組織に変化を起こす 2035年生き残り戦略の教科書』メディカ出版

他、授業中に適宜紹介します。

オフィスアワー 講義のあと1時間（21時30分～22時30分）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

課題ならびに授業については、院生の主体的な参加を求めます。

ナンバリングコード 授業科目名 (時間割コード： 800002) 健康イノベーション研究方法論 健康イノベーション研究方法論 Methodology of Health innovation	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士後 期課程
	水準・分野	DP・提供部局 BCXM	対象学生・特定プロ グラムとの対応
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 山本 美輪, 渡邊 久美, 藤井 豊, ウ ィリー・イアン・デビッド, 谷本 公重, 塩 田 敦子, 野口 修司	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義・演習90分×15回 (準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要 実社会の課題を解決できるヘルスケアを創造するために、健康創造に資する研究に向けて多学門分野（高齢者看護学、精神看護学、心理学、ウイルス学等）からの見識を取り入れ、個人及び集団の健康力を高めるケア開発や技術革新へ向けて、より高次の研究手法を修得する。			
授業の目的 多学問分野における高い倫理観を基盤に、一般市民を含む人々の健康教育力向上とともに健康イノベーションに寄与できる介入研究や疫学研究、また国際的な場で発表するための手法を身に付ける。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 健康イノベーションにおける生命倫理の概要を説明できる (DP「倫理観・社会的責任」に対応)。 2. 超高齢者社会における高齢者問題やその家族が抱える課題に対する解決方策を考察できる (DP「専門知識・理解」「研究能力・応用力」に対応)。 3. 健康イノベーションから捉えた尺度構成理論の概要や現象における測定概念と尺度構成を理解し、方法的理解と技術修得する (DP「専門知識・理解」「研究能力・応用力」に対応)。 4. 観察研究や介入研究から探究する健康イノベーションの概要を理解し、ウイルス遺伝子解析からの感染症の流行と予防に関する研究手法を修得する (DP「専門知識・理解」「研究能力・応用力」に対応)。 5. 研究成果の国際的公表方法の概要を理解し、国際学会等で発表に必要なスキルを修得する (DP「専門知識・理解」「研究能力・応用力」「グローバルマインド」に対応)。			
成績評価の方法と基準 レポート課題：50% (各担当者からの課題) と健康イノベーションに関する研究についてディスカッション等の討議に関するプレゼンテーション課題 (50%) と総合して評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】全15回 山本美輪／3回 第1回：ガイダンスおよび健康イノベーションにおける生命倫理に関する概要 第2回：超高齢社会における高齢者問題やその家族が抱える倫理的問題の把握と考察 第3回：治療やケア未確立の認知症高齢者やその家族の倫理的問題の課題・解決策を研究的視座から探究する 野口修司／2回 第4回：健康イノベーションから捉えた、こころと態度及び尺度構成理論に関する概要 第5回：こころと態度の測定技法 渡邊久美／2回 第6回：看護職による認知行動療法的アプローチの介入研究のプログラム開発・実際のCBT-Nにおける講義及び演習による探究 第7回：看護職による認知行動療法的アプローチの介入研究の評価法・効果検証のエビデンスレベルと臨床及び地域に着目しプログラム構築と研究デザインを設計し、相互評価。 藤井 豊／2回 第8回：ウイルス遺伝子解析による進化系統樹についての講義と演習 第9回：ウイルス感染症をモチーフとして、遺伝子解析から感染症の流行と予防の疫学的解析を学ぶ 塩田敦子／2回 第10回：母性・婦人科疾患の研究論文クリティークを通して、東洋医学の視点から課題解決を探究する。 第11回：東洋医学の視点を看護における健康イノベーション、ヘルスケアに活かす手法、また看護研究に活かす手法を創造する。			

Willey Ian David、谷本公重／4回（共同）

第12回：研究成果の国際的公表方法の概要

第13回：研究成果を国際的な場で発表するために必要となるスキルの概要

第14回：英語文献講読とアカデミックライティング

第15回：国際学会におけるプレゼンテーション（Oral/Poster）法について修得する

【授業及び学習の方法】

講義、演習、ディスカッション、プレゼンテーション、課題レポート

【自学自習のためのアドバイス】

健康イノベーションに関する文献等に興味関心を持ち、各教員からのアドバイスに従ってほしい。

*この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。

教科書・参考書等

各教員より適時紹介する。

オフィスアワー 担当教員と直接アポイントメントを取ってください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

オムニバスで行うため、事前に学生より各教員に連絡、相談し主体的に講義に出席してください。

ナンバリングコード 授業科目名 (時間割コード: 800003) 希少糖科学特論 希少糖科学特論 Rare sugar	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士後 期課程
	水準・分野	DP・提供部局 ABDM	対象学生・特定プロ グラムとの対応
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 藤原 祐一郎	関連授業科目	医科学特論	
	履修推奨科目	医科学特論	
学習時間 講義・演習90分×8回+自学自習(準備学習 15時間 + 事後学習 15時間)			
授業の概要 希少糖は自然界に微量にしか存在しない単糖(およびその誘導体)として定義される。存在量は少ないが、種類は50種類以上と多い。香川大学の何森教授らはこの希少糖を40年前から研究し、果糖からD-アルロース(D-プシコース)を大量生産する酵素を発見した。そして最終的に「イズモリング」と呼ばれる希少糖生産戦略図の完成に至る。希少糖の大量生産により、昆虫、植物、動物、ヒトなどを対象とした機能解析が進んだ。さらに、それら希少糖の機能を応用し、食品、農薬、医薬品を初めとして、幅広い機能性が期待されている。希少糖の生い立ちから、その生産、機能および応用について学習することを通して、香川県が世界の希少糖拠点となっている現状を理解する。希少糖が地域の活性化にどのように役立つか、特に地域の健康(生活習慣病予防)への貢献の可能性についても考える。			
授業の目的 「希少糖」はなぜ香川で生まれたのか、希少糖の諸性質・諸機能について知る。また産学官連携による希少糖産業の振興について、香川県内、日本国内さらに世界でどのような趨勢であるかを知る。そして希少糖の未来、今後の展開について考える。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 希少糖とは何か、そしてなぜ香川大学で生まれたか。 2. 希少糖の基礎研究から応用研究の現状についての知識を得る。 3. 産学官連携プロジェクトとしての希少糖プロジェクトについて学習する。 4. 希少糖の未来への展開・展望を考える。 			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1、希少糖の意味について概説できる。(DPの「専門知識・理解」に対応) 2、希少糖の臨床応用に関して概説できる(DPの「研究能力・応用力」に対応) 3、産学官連携について概説できる(DPの「グローバルマインド」に対応)			
成績評価の方法と基準			
レポート(100%)で評価する。自主的な学習を求める。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
授業計画 (1) 希少糖とは、希少糖の生産、イズモリング(何森) (2) 希少糖と植物(秋光) (3) 希少糖と食品(早川) (4) 希少糖の産学連携とイノベーション(渡辺) (5) 希少糖の健康機能1(全般、D-アルロース)(徳田) (6) 希少糖の健康機能2(D-アルロース、D-アロース)(南野) (7) 希少糖の健康機能3(D-アロース)(星川) (8) 希少糖の健康機能4(D-タガトース、他の希少糖)(新井) その他関連の論文や総説を提供し読んでもらい、与えられたテーマでレポートを作成する。 希少糖に関するイベントに参加することも紹介する。 授業及び学習の方法: 集中講義形式で行う。 【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】 授業テーマに沿って自学自習を行うこと(準備学習 15時間 + 事後学習 15時間)			
教科書・参考書等			
教科書 特に定めない			
参考書 希少糖秘話(何森健著)、香川発希少糖の軌跡(松崎隆司著)			
オフィスアワー 講義終わり随時受け付ける			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
医学専攻必修、他専攻からの履修も認める			

ナンバリングコード 授業科目名 (時間割コード: 800004) 医科学特論 医科学特論 Special Lecture on Medical Science	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士後 期課程
	水準・分野	DP・提供部局 BADM	対象学生・特定プロ グラムとの対応
	授業形態 Mx	単位数 2	
担当教員名 藤原 祐一郎	関連授業科目	医科学概論	
	履修推奨科目	医科学概論	
学習時間 講義90分×8回+実験・実習180分×8回(準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要 大学院博士課程の共通科目として開講され、医学研究の基本的ストラテジーを幅広い研究領域でカバーして医科学特論授業が行われる(研究ストラテジー講義、基礎研究・橋渡し研究・臨床研究の演習及び実習)。そのストラテジーを実践する具体的研究手法として演習・実技指導セミナーと関連講義が行われる。			
授業の目的 研究目的に合致した手法やその実践法との関連性を理解し、実研究に役立つ速戦的知識や研究手法を修得する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 医学研究の基本的ストラテジーを幅広い研究領域で理解し、その要点を適切に説明できる (DPの「専門知識・理解」に対応) 2. ストラテジーを実践する具体的研究手法を適切に提示できる。(DPの「専門知識・理解」に対応)			
成績評価の方法と基準 レポート提出(100%)で評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
講義(第1-11回)のオムニバス講義から8回を選択すること。 1 蛋白質機能解析技術 平野 2 臨床研究について 西山 3 トランスレーショナル・リサーチの実際 西山 4 形態学・組織細胞化学アップデート 荒木 5 癌個別化医療に利用される解析技術 杉元 6 高速液体クロマトグラフ法:ビリルビン分析を中心とした 岡田 7 研究手法としての形態学形態学の基礎・組織定量・免疫組織化学 三木 8 細胞シグナル伝達解析技術:蛋白質リン酸化とカルシウムシグナル 平野 9 ヒトゲノムプロジェクト、他生物ゲノムプロジェクトの動向とその意義 竹崎 10 成長因子、生体内吸収材料を応用した再生医療 呉 11 タンパク質の3次元構造解析とその応用 神鳥 (実験実習) 実験実技指導セミナー 17のテーマから1つを選択し、指導を受けること。 1) STEREOLOGYによる形態計測 三木 2) 病態解析用モデル動物の作成と利用 山本 3) 細胞のイオン輸送をリアルタイムで定量する「パッチクランプ法」 宮下 4) 電子顕微鏡を使った実験の進め方 上野 5) 蛍光抗体法の解釈と実際 大日 6) HPLCの臨床応用・近赤外分光法の臨床応用 岡田・日下 7) 発現系を用いた膜蛋白質の機能解析 藤原 8) 脂質代謝酵素の性状解析 宇山 9) 3次元分子モデリングの手法を用いたタンパク質・リガンド相互作用の解析 神鳥 10) DNA塩基配列データ解析 竹崎 11) in Vivoイメージングによる病態解析 西山 12) 消化器癌における細胞周期 小原 13) CD-DST法による抗がん剤感受性試験 杉元 14) 糖尿病網膜症の分子メカニズム 鈴間 15) 細胞への遺伝子導入法 村尾 16) フローサイトメトリーの原理と実際 星野 17) 生物統計学への招待 平尾			
【授業及び学修の方法】 講義と演習と実験実習で行われる。講義演習、実験実習についてレポートを課す。			
【準備学修及び事後学修のためのアドバイス】 自学自習(準備学習 30時間 + 事後学習 30時間) 事前に関連事項について予習しておくとともに、関連する最新の論文を調べる。30時間各課題について、その			

要点をレポートにまとめる。30時間

教科書・参考書等

担当教員が適宜紹介する。

オフィスアワー 担当教員と直接アポイントメントを取ること。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

○医科学特論は「がんプロフェッショナル養成科目群」の学生に限り講義e-learningでの受講を認める。ただし、実技指導セミナーについてはe-learningでの実施は行わない。

○看護学専攻（博士後期課程）の履修者は選択必修科目とする。

ナンバリングコード 授業科目名 (時間割コード： 800005) 健康発達支援看護特講 健康発達支援看護特講 Special lecture on Health Development Support for Nursing	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士後 期課程
	水準・分野	DP・提供部局 ABXM	対象学生・特定プロ グラムとの対応
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 市原 多香子, 谷本 公重, 山本 美 輪, 川田 紀美子, 塩田 敦子	関連授業科目	地域ケアシステム創造看護特講	
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×15回+自学自習(準備学習60時間)			
授業の概要 この授業では、あらゆる発達段階(成人・老年・小児・母性)・健康レベルにある人々の健康課題を的確に把握し、ヘルスケアの発展に関連する各領域(成人・老年・小児・母性・治療)の最新トピックスを踏まえたうえで、生命・生活・人生の質向上を支援する看護モデルと援助技術のエビデンス、さらに治療やケアの標準化の考え方を学修する。その上で、臨床現場の実態および看護ケアの質向上に向け、科学的な視点から分析し、健康寿命の延伸に寄与できる、新しい看護ケアの開発と理論開発による健康課題解決の可能性を探究する。			
授業の目的 命のめばえから生涯にわたる人々の健康課題を的確に把握し、健康力や生活の質向上のためのケアモデルと援助技術のエビデンスや看護ケアの標準化について学修する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 国内外の研究・実践の動向を多角的に分析し、病院および在宅における看護モデルやケアの標準化について討議できる。(DPの「専門知識・理解」に対応) 2. 国内外の論文クリティークを通して、健康QOLの向上に寄与できる健康課題を整理できる。(DPの「専門知識・理解」に対応) 3. 健康課題解決に向けた研究開発の方向性を見極め、研究課題を探究できる。(DPの「研究能力・応用力」に対応)			
成績評価の方法と基準 討議20%(特に到達目標1に対応)、プレゼンテーション20%(特に到達目標2に対応)、レポート60%(特に到達目標3に対応)			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 オリエンテーション・成人看護学で活用されている理論・アプローチ動向と限界(市原) 第2回 成人看護学に関する国内外の研究論文クリティーク(市原) 第3回 療養患者の健康力向上、重症化予防の視点から健康課題を分析し、解決策を探究する。(市原) 第4回 老年看護学で活用されている理論・アプローチ動向と限界(山本) 第5回 老年看護学に関する国内外の研究論文クリティーク(山本) 第6回 高齢者やその家族のQOLを支える視点から課題解決を探究する。(山本) 第7回 小児看護学で活用されている理論・アプローチ動向と限界 第8回 小児看護学に関する国内外の研究論文クリティーク(谷本) 第9回 胎児から若年成人までの切れ目ない医療・保健・福祉の支援、健康力向上に向けた課題解決を探究する。(谷本) 第10回 母性看護学・助産学で活用されている理論・アプローチ動向と限界(川田) 第11回 母性看護学・助産学に関する国内外の研究論文クリティーク(川田) 第12回 人々が自身の健康を保証しながら次世代を生み育てていくための課題と解決策について探究する。(川田) 第13回 女性医学分野で活用されるガイドライン・アプローチ動向と限界(塩田) 第14回 性差医療に関する国内外の研究論文クリティーク(塩田) 第15回 女性のリプロダクティブ・ヘルスの観点から生命倫理に関する課題を見つけ探究する。(塩田)			
【授業及び学習の方法】 授業は毎回、討議中心に進める。国内外の研究論文クリティークを行うため、毎回、健康創造看護学の構築に資する研究論文の発表と討議を行う。この科目は基本的に対面授業を行う。			
【自学自習のためのアドバイス】 第1-3回 療養患者の健康力向上、重症化予防、健康教育の視点から看護モデルやケアのエビデンス・ガイドライン等の文献・論文を集め整理し、授業で紹介できるように準備する。(市原)(12時間) 第4-6回 高齢者やその家族のQOLを支える視点から文献を集め、健康課題を整理し、授業で紹介できるように準備する。(山本)(12時間) 第7-9回 胎児から若年成人までの切れ目ない医療・保健・福祉の支援、健康力向上に向けた論文を集め、健康課題を整理し、授業で紹介できるように準備する。(谷本)(12時間)			

第10-12回 母性・助産領域の視点から論文を集め、健康課題を整理し、授業で紹介できるように準備する。(川田) (12時間)

第13-15回 女性医学分野、性差医療、生殖生命倫理の視点からそれぞれ文献を集め、健康課題を整理し、授業で紹介できるように準備する。(塩田) (12時間)

教科書・参考書等

教科書は指定しない。参考書は授業中に適宜紹介する。

オフィスアワー 講義のあと1時間 (21時30分～22時30分)

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

※この科目は基本的に対面授業を行いますので、講義が開始される前に、研究指導教員に相談ください。

授業は毎回、討議中心に進める。国内外の研究論文クリティークを行うため、毎回、健康創造看護学の構築に資する研究論文の発表と討議を行う。

ナンバリングコード 授業科目名 (時間割コード： 800006) 地域ケアシステム創造看護特講 地域ケアシステム創造看護特講 Advanced Community Health Care System Creative Nursing	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士後 期課程
	水準・分野	DP・提供部局 ABCM	対象学生・特定プロ グラムとの対応
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 松本 啓子, 渡邊 久美, 前川 泰子, 藤井 豊, 芳我 ちより	関連授業科目	健康創造看護学演習	
	履修推奨科目	健康創造看護学演習	
学習時間 講義90分×15回 + 自学自習(準備学習30時間 + 事後学習30時間)			
授業の概要 超少子高齢社会、人口減少が加速する地域社会における次世代ケアシステムの構想として、既存の制度やインフラに依存しすぎることなく、その地域独自の自助、互助、共助を基盤とする保健・医療・福祉・生活を有機的に連携させた革新的な仕組みの開発が期待される。在宅を支える行政サービスの理解を深めた上で精神障害や認知症その他の人々の生活に着目した感染症等の視点を含め、公衆衛生的な観点にまで思考を深めるために具体的方法について、多角的に探究する。その実現に向けて、文献検討・先行研究リサーチを通して、各専門領域におけるシステムづくりに必要となる理念、研究方法論に関する検討を行い、そのアウトカム評価に関する多様な研究デザインのあり方について探究する。			
授業の目的 保健・医療・福祉・生活を一体的にみて地域における組織や社会の活性化を図る地域包括ケアシステムの構築を通して、理論的に人々の健康を支える考え方や方法、システムづくりに関する能力を学修する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 国内外の研究・実践の動向を多角的に分析し、病院および在宅における看護モデルやケアの標準化について討議できる。(DPの「専門知識・理解」に対応) 2. 国内外の論文クリティークを通して、健康QOLの向上に寄与できる健康課題を整理できる。(DPの「専門知識・理解」に対応) 3. 健康課題の解決に向けた研究開発の方向性を見極め、研究課題を探究できる。(DPの「研究能力・応用力」に対応)			
成績評価の方法と基準 プレゼンテーション40% (特に到達目標2に対応)、レポート60% (特に到達目標1、3に対応)、講義態度等と合わせて評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
授業計画】 第1回 オリエンテーション：User Needs Algorithmを用いた行政サービスプログラムの開発に向けて、文献から研究の潮流を知る (松本)。 第2回 研究の潮流を踏まえた上で、行政サービスプログラムの開発に向けて社会情勢を理解する (松本)。 第3回 User Needs Algorithmを用いた行政サービスプログラムの開発に向けた、社会情勢および研究の潮流を踏まえたうえで具体的方法について、多角的に探究する (松本)。 第4回 精神障害者および就労弱者の就労支援モデルを可視化するため、企業と福祉の連携の実際について、文献検討及び、障害者就労の現地においてフィールドワークを行う (渡邊)。 第5回 精神障害者および就労弱者の就労支援モデルを可視化するため、就労弱者が共生できる分業と人員配置のノウハウについて、障害者就労の現地においてフィールドワークを行う (渡邊)。 第6回 精神障害者の就労支援モデルの可視化を試みるとともに、そのアウトカム評価に関する研究の展開について、フィールドワークで得た学びに基づき、多角的に探究する (渡邊)。 第7回 我が国の行政の情報化施策の経緯と現状について知り、地域行政のサービスシステムに求められている機能や安全性、その実現に向けた取り組みなど文献検討を行う (前川)。 第8回 現状を概観的に踏まえた上で、超少子高齢社会、人口減少が加速する地域社会に焦点化し、課題解決に対する多様な社会状況を理解する (前川)。 第9回 超少子高齢社会、人口減少が加速する地域社会に焦点化した課題解決に対する多様な社会状況を理解したうえで、Information and Communication Technology (ICT)を用いたツール開発に関する研究やその応用について探究する (前川)。 第10回 行政の制度や精神疾患その他の状況を踏まえた上で、すべてに影響を与える感染予防対策状況の理解は重要である。インフルエンザウイルスおよび新型コロナウイルスの研究論文等から文献検討を行う (藤井)。 第11回 インフルエンザウイルスおよび新型コロナウイルスの研究論文を用い、ウイルスの増殖や感染症の流行を阻止といった課題解決を探究する (藤井)。 第12回 第10回、第11回の授業を踏まえて、健康QOL向上を見据えた研究の方向を展望する (藤井)。 第13回 行政の制度や地域でのケアの現状を研究的にも概観したうえで、公衆衛生看護学で活用されている理論・アプローチ動向と限界を捉える (芳我)。 第14回 国内外の文献論文クリティークを通して、健康課題を整理する (芳我)。			

第15回 国内外の文献検討から、整理した健康課題を焦点化し、その解決に向けた研究の方向性を探究する（芳我）。

【授業及び学習の方法】

授業は毎回、討議中心に進める。国内外の研究論文クリティークを行うため、毎回、健康創造看護学の構築に関連する研究論文の発表と討議を行う。この科目は基本的に対面授業を行う。

【自学自習のためのアドバイス】

第1回～第3回 地域ケアシステムにおける在宅看護学領域での理論の活用の可能性や看護モデルの援用について文献収集、自分なりの意見の構築を行う（松本）。

第4回～第6回 地域ケアシステムにおける精神看護学領域での理論の活用の可能性や看護モデルの援用について文献収集をする。様々な既存システムや精神保健福祉施策との関係を踏まえて、看護職としての立場から、障害者と健常者の隔のない共生をめざす新たな就労支援モデル案の構築を行う。（渡邊）

第7回～第9回 地域ケアシステムにおける基礎看護学領域での理論の活用の可能性や看護モデルの援用について文献収集、自分なりの意見の構築を行う（前川）。

第10回～第12回 地域ケアシステムへの寄与を目指してウイルスの増殖や感染症の流行に関して論文を集め、健康課題を整理し、授業で紹介できるように準備する（藤井）。

第13回～第15回 地域ケアシステムにおける地域看護学領域での理論の活用の可能性や看護モデルの援用について文献収集、自分なりの意見の構築を行う（芳我）。

なお、授業は対面を予定していますが、その時の状況により、遠隔授業へと変更になる可能性があります。事前に、大学からのお知らせ等の確認するようにしてください。

教科書・参考書等

教科書は指定しない。参考書は授業中に適宜紹介する。

オフィスアワー 講義のあと1時間（21時30分～22時30分）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

地域のケアシステムを創造的思考のもとに、看護に還元するために探究したいと思います。自分なりの意見を持ち、講義に臨んでください。

ナンバリングコード 授業科目名 (時間割コード： 800007) 健康創造看護学演習 健康創造看護学演習 Field Study for Dissertation Resear	科目区分	時間割 後期末定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士後 期課程
	水準・分野	DP・提供部局 BCXM	対象学生・特定プロ グラムとの対応
	授業形態 Ef	単位数 4	
担当教員名 塩田 敦子, 藤井 豊, 前川 泰子, 市 原 多香子, 谷本 公重, 川田 紀美子, 山本 美輪, 渡邊 久美, 松本 啓子, 芳 我 ちより, 西村 亜希子, 辻 京子, 金 正 貴美	関連授業科目 康イノベーション概論 健康イノベーション研究方法論		
	履修推奨科目 康発達支援看護特講 地域ケアシステム創造 看護特講		
学習時間 演習 90分×30回 + 自学自習 (準備学習30時間+演習自己学習60時間+事後学習30時間)			
授業の概要 社会的実装を可能とする研究実施のため、あらゆるライフステージの人々を支援する専門・実践的取組等による知見を基盤とし、それぞれの探究する発達・健康課題を国内外の文献検討・先行研究リサーチを通して、取り組むべき革新的な研究課題を明確化することが必要である。したがって、本演習では命のめばえから生涯にわたる人々へのケアを実践している場でのフィールドワークを重視した内容とする。研究の実践活動の一環として、探究する領域の医療・福祉サービス提供機関等での多職種連携による現場研修を含め、さらに研修会や学術集会・研究会等への参加を行う。			
授業の目的 自己の研究課題の精選、および課題解決へ向けたフィールドワーク、研究者や実践家とのディスカッションを通して見聞を深めることで、自己の研究課題をより明確化する。フィールドワークの成果と多角的文献検討を統合し、個人および集団の健康力を高めるケア開発、健康の可能性を拡大する技術革新、一般市民を含む人々の健康教育に関連した健康イノベーション寄与できる研究課題を明確化する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. フィールドワークで取り組むべき課題について論理的に述べることができる。(DPの「研究能力・応用力」に対応) 2. フィールドワークの活動・調査方法を立案し、説明できる。(DPの「研究能力・応用力」に対応) 3. フィールドワーク立案計画について、フィールドの関係組織、担当者に説明・提案することができる。(DPの「研究能力・応用力」に対応) 4. フィールドワークにおいて、研究課題に関する実際の現象確認または基礎調査を理論的根拠に基づき実施できる。(DPの「研究能力・応用力」に対応) 5. フィールドの特性に応じた、顕在的あるいは潜在的な健康課題を述べるすることができる。(DPの「研究能力・応用力」に対応) 6. フィールドワークで得られた研究課題に関する現象や基礎調査の成果を適切にフィードバックすることができる。(DPの「倫理観・社会的責任」に対応) 6. 研究すべき課題を適切に表現できる。(DPの「研究能力・応用力」に対応) 7. 取り組むべき研究課題について論理的に説明できる。(DPの「研究能力・応用力」に対応) 8. 研究課題に応じた研究デザインを選択できる。(DPの「研究能力・応用力」に対応) 9. 研究実施に伴う、倫理的課題について説明できる。(DPの「倫理観・社会的責任」に対応) 10. 科学的妥当性および倫			
成績評価の方法と基準 講義中の主体的態度(20%)およびフィールドでの取り組み姿勢や成果プレゼンテーションでの討議内容(50%), 研究計画書作成の達成度(30%)で評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 研究課題の明確化および適切な研究手法の選択のために、フィールドワークを行う。そのため、第1回～10回までを、フィールドワークの準備期間とし、課題候補を抽出し、フィールドワークを計画していく。第11回～第24回までは、計画に基づき、フィールドワークを展開。途中、適宜、指導教員と連絡を取りながら、主体的にフィールドワークを行う。第25回で、現地でフィールドワークの成果発表を行い、その後、その成果を踏まえた上で、より、科学的妥当性、倫理的妥当性のある研究計画を立案していく。			
第1回 ガイダンス：本授業の進め方・方針について説明する。 第2回 フィールドワーク準備：フィールドワークにおける看護実践の課題候補の抽出 第3回 フィールドワーク準備：フィールドワークの場所・施設に関する情報収集 第4回 フィールドワーク準備：フィールドワークの場所・施設決定と方法の検討 第5回 フィールドワーク準備：フィールドワークの目標設定 第6回 フィールドワーク準備：フィールドワークの計画立案 第7回 フィールドワーク準備：具体的方法とスケジュール立案			

- 第8回 フィールドワーク準備：活動計画の倫理的課題検討
- 第9回 フィールドワーク準備：系統的評価方法の検討
- 第10回 フィールドワーク計画発表
- 第11回 フィールドワーク開始：ゲートキーパーに対する目的、方法の説明、検討

・フィールド候補：本学医学部附属病院及び関連病院、国際希少糖研究機構、四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構、四国こどもとおとなの医療センター、香川県内の小中学校、香川県内自治体、中四国内訪問看護ステーション・介護福祉系施設、香川県内精神障害者家族会、香川小児がん家族会、当事者支援グループ・就労継続支援施設、本学協定校（タイ、チェンマイ大学等）、各研修会・学術集会・研究会

・第11回～第24回までは、フィールドの状況、フィールドワーク目標にそって、学習をすすめる。以下、おおよその内容を示す。

- 第12回 フィールドワーク：フィールドおよび対象の全体把握①
- 第13回 フィールドワーク：フィールドおよび対象の全体把握②
- 第14回 フィールドワーク：12～13回とは異なる方法でのフィールドおよび対象の全体把握①
- 第15回 フィールドワーク：12～13回とは異なる方法でのフィールドおよび対象の全体把握②
- 第16回 フィールドワーク：フィールドおよび全体の概要のまとめ
- 第17回 フィールドワーク：フィールド調査①
- 第18回 フィールドワーク：フィールド調査②
- 第19回 フィールドワーク：フィールド調査③
- 第20回 フィールドワーク：関係者への聞き取り内容および調査方法の再調整
- 第21回 フィールドワーク：関係者への聞き取りおよび調査①
- 第22回 フィールドワーク：関係者への聞き取りおよび調査②
- 第23回 フィールドワーク：関係者への聞き取りおよび調査③
- 第24回 フィールドワーク：関係者への聞き取りおよび調査④
- 第25回 フィールド内での活動成果発表
- 第26回 研究計画書作成：フィールドワーク成果を踏まえた上での研究課題の明確化
- 第27回 研究計画書作成：研究デザインの検討
- 第28回 研究計画書作成：研究方法の検討
- 第29回 研究計画書作成：データ分析の方法の検討
- 第30回 研究における倫理的課題の検討

【授業及び学習の方法】

フィールドでの活動および予備調査を中心に進めます。活動目標は指導教員および各フィールド担当の教員を中心として共に検討します。フィールドワーク中は常に、自己の目標とフィールドの状況を照らし合わせて、フィールドノートの作成・インタビュー実施などを適切に行うこと。また、適宜、指導教員と連絡をとり、学習目標の到達に向け、自学自習を進めてください。各教員は、より完成度の高い研究計画立案ができ、授業目標が到達できるように、倫理的配慮を基盤として、研究の独創性と新規性等の視点から質問やアドバイスを発展的に行います。

【自学自習のためのアドバイス】

フィールドの特性に応じた、適切な態度で主体的かつ自律的な姿勢で取り組むことが重要です。事前には、自己の研究疑問を明確にし必要な文献や資料を収集すること。フィールドワーク中は、自己の視点と、フィールドワークで調査する対象の視点を比較し、現象をとらえることを意識して記録をしてください。また、フィールドワークの最終には、現地で成果発表を行いません。フィールドワーク終了後には、その成果を踏まえた上での研究課題の明確化をおこない、研究計画書作成に取り組んでください。

教科書・参考書等

【参考書】

- ・Polit D. F, Beck C.T(2020): Nursing Research: Generating and Assessing Evidence for Nursing Practice (11th ed.), Lippincott Williams & Wilkins
- ・Burns N, Grove SK (2005)/ 黒田裕子, 中木高夫, 逸見功訳 (2015):バーンズ&グローブ看護研究入門 原著第7版ー評価・統合・エビデンスの生成ー, エルゼビア・ジャパン
- ・American Psychological Association (2020): Publication Manual of the American Psychological Association (7thed.), American Psychological Association, Washington
- ・Hulley, SB. et al (2007)/木原雅子, 木原正博訳 (2014) : 医学的研究のデザイン(第4版), メディカル・サイエンス・インターナショナル.

オフィスアワー 研究指導教員に随時、可能。メールを利用し、アポイントメントを取ってください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

フィールドの特性に応じた、適切な態度で主体的かつ自律的な姿勢で取り組むことが重要です。各教員は、より完成度の高い研究計画立案ができ、授業目標が到達できるように、倫理的配慮を基盤として、研究の独創性と新規性等の視点から質問やアドバイスを発展的に行います。適宜、連絡をしてください。

ナンバリングコード 授業科目名 (時間割コード： 800008) 健康創造看護学特別研究 Doctoral Dissertation	科目区分	時間割 前期未定	対象年次及び専攻 医学系研究科博士後 期課程
	水準・分野	DP・提供部局 BCXM	対象学生・特定プロ グラムとの対応
	授業形態 Ex	単位数 6	
担当教員名 市原 多香子, 谷本 公重, 藤井 豊, 渡邊 久美, 前川 泰子, 山本 美輪, 松 本 啓子, 芳我 ちより, 塩田 敦子, 川 田 紀美子, 西村 亜希子	関連授業科目	健康発達支援看護特講、地域ケアシステム創造 看護特講、健康創造看護学演習	
	履修推奨科目	健康イノベーション概論、健康イノベーション 研究方法論	
学習時間 授業90分×60回 + 自学自習 (準備学習180時間)			
<p>授業の概要</p> <p>この授業では、指導教員1名、副指導教員1名以上の指導の下に「健康創造看護学」に関する学位論文の研究計画を策定し、研究活動を実施し、その成果を学位論文にまとめるための科目であり、指導教員・副指導教員のゼミ形式で運営する。学生の研究テーマは、必修科目である「健康発達看護特講」または「地域ケアシステム創造看護特講」を踏まえ、1年次から研究計画の立案を開始し、2年次では研究の実施、3年次に研究をまとめることを目安とする。</p> <p>学生は、健康創造看護学の発展に寄与できる研究課題を明確化し、研究計画書を洗練させて、研究活動を展開する。具体的には、1年次より研究計画をたて、医学部倫理審査を受け、研究フィールドにおけるデータ収集を行い、収集したデータを分析し、博士課程に相応しい研究成果物を作成する。</p> <p>また各指導教員の専門性に基づいた特別研究の概要を下記に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康寿命延伸の視点から、療養患者の健康力向上、重症化予防のための看護を発展させる新規性のある研究課題を選定し、新たな研究方法へのチャレンジを検討しながら、臨床との連携・協働による研究手法を選択し、結果の妥当性を確保した論文を作成できるよう研究指導を行う。(成人看護学：市原教授) ・実社会のヘルスケアに関する課題に対して、様々な学問分野の技術を自由な発想で応用し、課題解決につながるヘルスケアシステムの開発・構築に取り組む。開発研究における研究デザイン、アウトカムの利活用、多角的な評価など検討し、さらなる発展につながるよう研究指導を行う。(基礎看護学：前川教授) ・ウイルス感染症の流行を、血清疫学的調査あるいは検体採取により捉え、基礎医学の視点から解析を行う。感染症の予防や流行阻止に繋がるテーマを設定し、課題解決に有用な研究指導を行う。(看護医科学：藤井教授) ・超高齢社会における高齢者問題やそれに伴う倫理的課題、また高齢者やその家族が抱えるニーズを量的・質的データより明らかにし、エビデンスに基づく創造的ケアやシステムの開発を探究できる研究指導を行う、(老年看護学：山本教授) ・少子化社会における様々な発達段階・健康レベルにある小児の健全な成育を支援するためのケアアプローチの構築、健康教育支援方法の開発を導く、研究課題を選定し、様々な研究方法の可能性を検討のうえ、創造性、独創性を備えた研究論文作成のための研究指導を行う。(小児看護学：谷本教授) ・在宅療養者とその家族のQOLの視点から、社会情勢を踏まえた上で、地域包括ケアシステムにおける行政のサポートシステムや支援体制の現状、エビデンスによる看護実践について多面的に文献検討を行う。在宅で療養者やその家族がその人らしく暮らすための課題を、そこで起こっている現象や看護方法、環境等の要因から検討し、課題解決に有用な研究指導を行う。(在宅看護学：松本教授) ・精神看護の立場から精神障害当事者やその家族を支援するための地域ケアシステムにおける課題を、行政や多機関、多職種連携の実践から探索し、支援体制の現状に関するヒヤリングや多面的からの文献検討を行い、研究的に取り組むテーマを設定する。当事者やその家族の自立やリカバリーを促進することのできる看護方法を多角的に検討し、課題解決に有用な研究指導を行う。(精神看護学：渡邊教授) ・健康寿命の延伸を目指し、小児期からのヘルスプロモーションを推進するために、必要なエビデンスを構築するための研究を遂行する。理論的基盤として、ライフコースアプローチやDOHad学説などを理解し、疫学を主とした研究手法を活用して、社会的実装を可能とする研究成果を産出する。(地域看護学：芳我教授) ・思春期における性教育、月経前症候群・困難症、成人期における婦人科がん検診の啓蒙活動、不妊症と妊産褥婦のメンタルヘルスの不調、子育ての悩み、更年期におけるうつ、慢性疼痛など、現代社会に生きる女性たちの健康課題を選定し、新たな解決方法を創造し探求する。加えて、漢方薬が看護学教育モデル・コア・カリキュラムに明記されるなど、看護教育の中で漢方教育が普及しつつあるなか、漢方、鍼灸の知恵は健康課題の解決に向けたセルフケアの方法を創造し得る。エビデンスにつながる研究方法について吟味し、論文作成のための研究指導を行う。(看護医科学：塩田教授) ・周産期をめぐる国内外の現状と課題の分析から母子とその家族における健康課題を取り上げ、母子のQOL向上のための妊娠期ケア構築や、ヘルスプロモーションにおける母子関係の重要性について統計的手法を用いて探求する。また、中国や他のアジア地域の研究者との共同研究を通じて、国際的視野に立った周産期ケアに関するエビデンスの構築を目指す。学生が自己の興味を研究課題として明確に定義し、課題解決のための一連の研究プロセスを有意義に辿り、研究結果を社会に提言できるように研究指導を行う。(母性看護学：川田教授) ・糖尿病をはじめとした生活習慣病の発症・重症化予防のための看護ケア・ケアシステムの開発、健康行動を支援する自己管理用デバイス、アプリケーションソフトウェア、セルフモニタリング機器等のICTや先進的技術を看護へ活用するための研究を行う。独立した研究者として活動するための準備期間として、研究テーマの立案、問題解決のための研究計画、フィールド開拓を含めた臨床や他の研究者との協働など、研究遂行のための指導を行う。(基礎看護学：西村准教授) 			

<p>授業の目的 健康創造看護学の発展に寄与できる研究課題を実装可能なものへと進化させ、研究計画書を精練し、研究活動を展開し、一定の結論を導き、学位論文を作成することを通して、研究能力・応用力を培う。</p>	
到達目標	学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<p>1. 各特講・健康創造看護学演習の進行及び成果と連動させながら、健康寿命延伸や健康QOL向上のための健康課題の解決に有用な研究計画を策定する。(DPの「研究能力・応用力」に対応) (DPの「倫理観・社会的責任」に対応)</p> <p>2. 研究計画に沿って研究活動を展開できる。(DPの「研究能力・応用力」に対応) (DPの「倫理観・社会的責任」に対応)</p> <p>3. 分析結果の妥当性を検証し、学位論文を作成する。(DPの「研究能力・応用力」に対応)</p>	
<p>成績評価の方法と基準 作成した研究計画書20% (到達目標1に対応)、研究プロセスへの取り組み状況30% (到達目標2に対応)、論文50% (到達目標3に対応) により総合的に評価する。</p>	
<p>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</p>	
<p>【授業計画】</p> <p>第1回 ガイダンス：博士課程の研究水準の説明</p> <p>第2回 追加文献検討</p> <p>第3回 追加文献検討と研究課題の明確化</p> <p>第4回 研究課題と概念分析①</p> <p>第5回 研究課題と概念分析②</p> <p>第6回 研究課題と概念枠組み</p> <p>第7回 リサーチミーティング発表と討論①：研究課題と概念枠組みの説明</p> <p>第8回 研究デザインの検討</p> <p>第9回 研究デザインの決定</p> <p>第10回 研究計画書の策定：追加文献レビュー</p> <p>第11回 研究計画書の策定：研究方法の再検討</p> <p>第12回 研究計画書の策定：研究意義、倫理的課題の再検討</p> <p>第13回 リサーチミーティング発表と討論②：研究計画書の説明</p> <p>第14回 研究計画書の完成</p> <p>第15回 研究計画書の間接発表：準備</p> <p>第16回 研究計画書の間接発表</p> <p>第17回 研究計画書の間接発表：研究計画書策定過程の自己評価と課題の明確化</p> <p>第18回 倫理審査申請書の準備</p> <p>第19回 倫理審査申請書の完成</p> <p>第20回 倫理審査申請書の修正</p> <p>第21回 研究の実施：対象施設・関連団体への研究依頼</p> <p>第22回 研究の実施：インフォームドコンセント</p> <p>第23回 研究の実施：対象者へのアプローチ</p> <p>第24回 研究の実施：初回データ入力とデータ収集の評価</p> <p>第25回 研究の実施：データ収集の再検討</p> <p>第26回 研究の実施：データ収集進捗状況①</p> <p>第27回 研究の実施：データ収集進捗状況②</p> <p>第28回 研究の実施：データ収集進捗状況③</p> <p>第29回 研究の実施：データ収集進捗状況④</p> <p>第30回 研究の実施：データ収集進捗状況⑤</p> <p>第31回 研究の実施：データ分析①データクリーニング</p> <p>第32回 研究の実施：データ分析②記述統計</p> <p>第33回 研究の実施：データ分析③推測統計</p> <p>第34回 研究の実施：データ分析④結果の要約</p> <p>第35回 研究の実施：データ分析⑤研究方法に応じた図表作成</p> <p>第36回 研究の実施：結果として論述、図表作成</p> <p>第37回 リサーチミーティング発表と討論③：データ分析の進捗状況まとめ</p> <p>第38回 論文作成：作成要領の確認</p> <p>第39回 論文作成：序論の論述</p> <p>第40回 論文作成：文献レビューの論述</p> <p>第41回 論文作成：研究目的の記述</p> <p>第42回 論文作成：研究目的と研究方法の論述</p> <p>第43回 論文作成：研究目的とデータ分析の解釈</p> <p>第44回 論文作成：分析結果の論述</p>	

- 第45回 論文作成：考察の論述
- 第46回 論文作成：結果と考察と結論
- 第47回 論文作成：抄録作成
- 第48回 リサーチミーティング発表と討論④：目的・方法・結果の整合性
- 第49回 論文投稿の準備①
- 第50回 論文投稿の準備②
- 第51回 論文投稿の準備③
- 第52回 論文投稿：修正①
- 第53回 論文投稿：修正②
- 第54回 論文投稿：修正③
- 第55回 論文投稿；修正④
- 第56回 論文投稿；修正⑤
- 第57回 学位論文の公開審査の準備①
- 第58回 学位論文の公開審査の準備②
- 第59回 学位論文の公開審査
- 第60回 学位論文の公開審査：全過程の自己評価と長期的展望

【授業及び学習の方法】

この科目は、指導教員や副指導教員からなるゼミ形式で運営する。指導教員等の指導の下、研究活動を実施することとなるが、学内の研究計画書の中間発表会において公開指導を受けたのち、医学部倫理委員会に倫理審査申請書を提出し、承認を得ておく。作成した研究計画をもとに研究活動を実施し、その成果を論文としてまとめ、関連雑誌に論文投稿する。雑誌への論文掲載が決定したら、学位論文公開審査を受けることができる。

【自学自習のためのアドバイス】

指導教員から個別に指導を受けながら、研究活動を展開し文作成を行ってください。

教科書・参考書等

教科書は指定しない。参考文献等を適宜提示する。

オフィスアワー 各指導教員による。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

この科目は、指導教員や副指導教員からなるゼミ形式で運営する。指導教員等の指導の下、研究活動を実施することとなるが、学内の研究計画書の中間発表会において公開指導を受けたのち、医学部倫理委員会に倫理審査申請書を提出し、承認を得ておく。
作成した研究計画をもとに研究活動を実施し、その成果を論文としてまとめ、関連雑誌に論文投稿する。雑誌への論文掲載が決定したら、学位論文公開審査を受けることができる。